

第3回全日本エンジョイ'80写真コンテスト

「第3回全日本エンジョイ'80写真コンテスト」には、94人、337点の応募がありました。
審査の結果、金賞には有馬良江さん（東京都）の「虹かかる街」が選ばれました。

◇審査委員長 大西 洋 入江泰吉記念奈良県写真美術館館長
◇審査委員 関西本部長 橋本 弦、 大阪府本部委員 今村 昭一

【コンテストの目的】

このコンテストは、全国の80歳以上の写真愛好家を対象に、写真を撮る楽しさ、作品を発表する喜び、そして写真を通じた人々との交流を大切に、豊かで生きがいのある高齢期を応援することを目的としています。

年齢を重ねても好奇心や創作意欲を持ち続け、写真を通じて社会とのつながりを広げていただきたいと願っています。

【総評】

今回の審査では、人生経験を重ねてこられた皆さんならではの視点と、写真を楽しむ気持ちが伝わる作品に数多く出会いました。技術的な完成度だけでなく、「なぜこの瞬間を撮ったのか」という撮影者の思いや、その方ならではの発見を大切に審査しました。年齢を重ねてもなお、好奇心を持って世界を見つめ、写真として残す。その豊かさと力強さを改めて感じるコンテストとなりました。

○表彰式・講評会

日時：2026年10月23日（金） 13：00～
会場：朝日新聞大阪本社会議室

○入賞作品展示

展示会場①

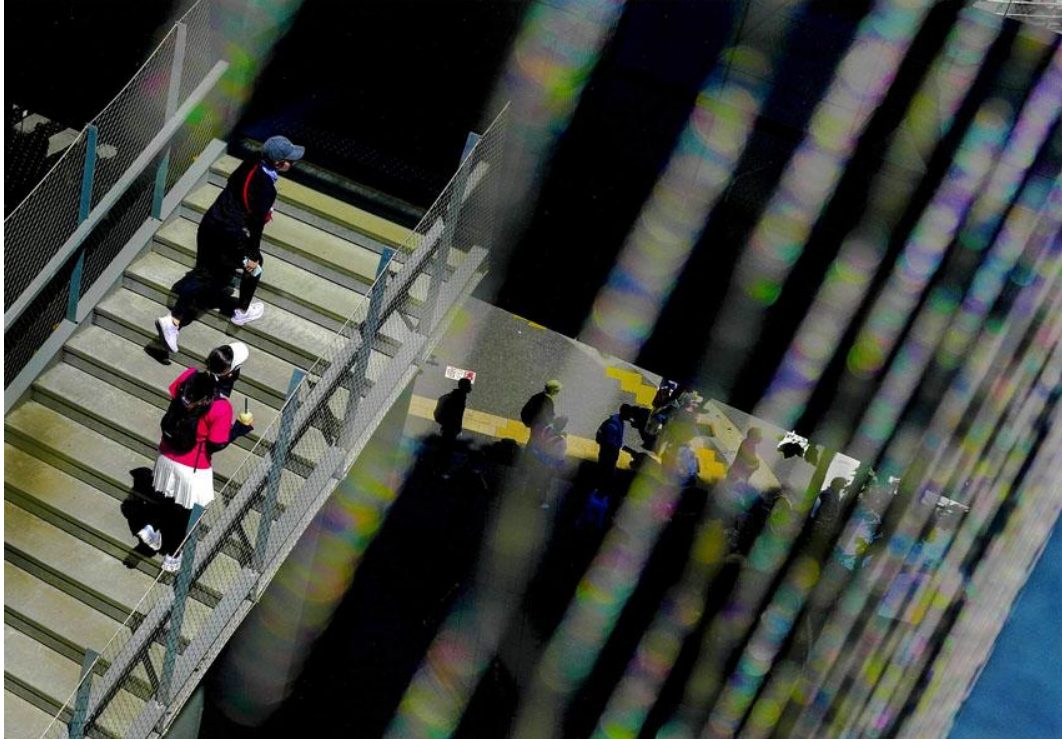
日時：10月12日（土）～10月23日（金） 最終日は15時まで
会場：中之島フェスティバルタワー13階スカイロビー

展示会場②

第37回滋賀朝日写真展

日時：11月18日（水）～11月22日（日）
時間：9時30分から17時 ※最終日は15時まで
会場：草津市立草津クレアホール展示ホール

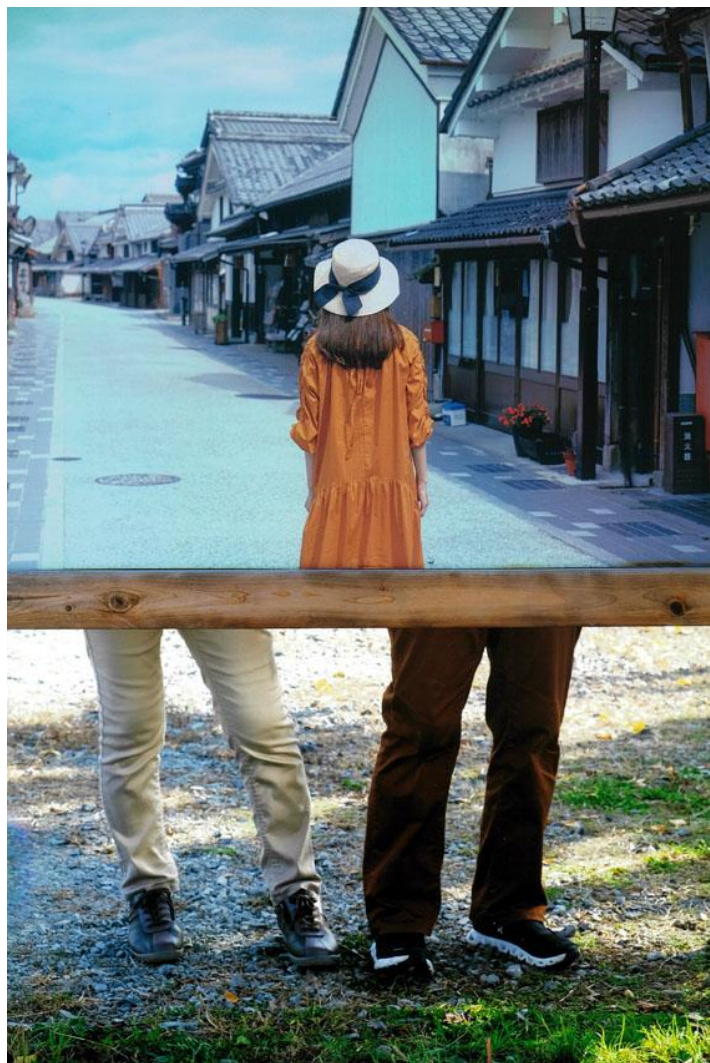
【 金賞 】



「虹かかる街」有馬良江（東京都）

大胆な構図と、画面を横切る光の色彩がまず目を引きます。階段を行き交う人々の日常を捉えながら、反射や光の重なりによって現実の風景が少し非日常的な世界へと変わっています。偶然の光を見逃さず、一枚の作品としてまとめた観察力と感性が印象的でした。

【 銀賞 】



「何処へ…」小野智子（奈良県）

歴史的な町並みの中で、女性を写した看板から四本の脚が生えているように見える、ユーモラスな瞬間を巧みに捉えています。観光地では、美しい風景や建物など、一般に「見る価値がある」とされるものへ目が向きがちです。その中で、日常に潜む違和感や面白さを見逃さず、独自の視点で作品に結び付けた点を高く評価しました。

【 銅賞 】



「店主」下村あつ子（大阪府）

新聞紙とも書類とも見える紙の山に囲まれ、店番をする店主の姿が、不思議な空気を醸し出しています。古書店を思わせる雑然とした空間には独特の味わいがあり、見る者の想像を誘います。店主のしぐさや視線など、人物の存在感をさらに引き出す瞬間を捉えられれば、より豊かな物語性と奥行きが生まれたでしょう。

【 銅賞 】



「霧の道連れ」山本宏宣（大阪府）

霧に包まれた道の先を、寄り添うように歩く二人の姿が印象的です。手前から奥へと伸びる道が見る者の視線を自然に導き、静寂に包まれた風景の中に、二人が重ねてきた長い人生の歩みを感じさせます。何げない情景から豊かな物語を引き出した、余韻のある作品です。

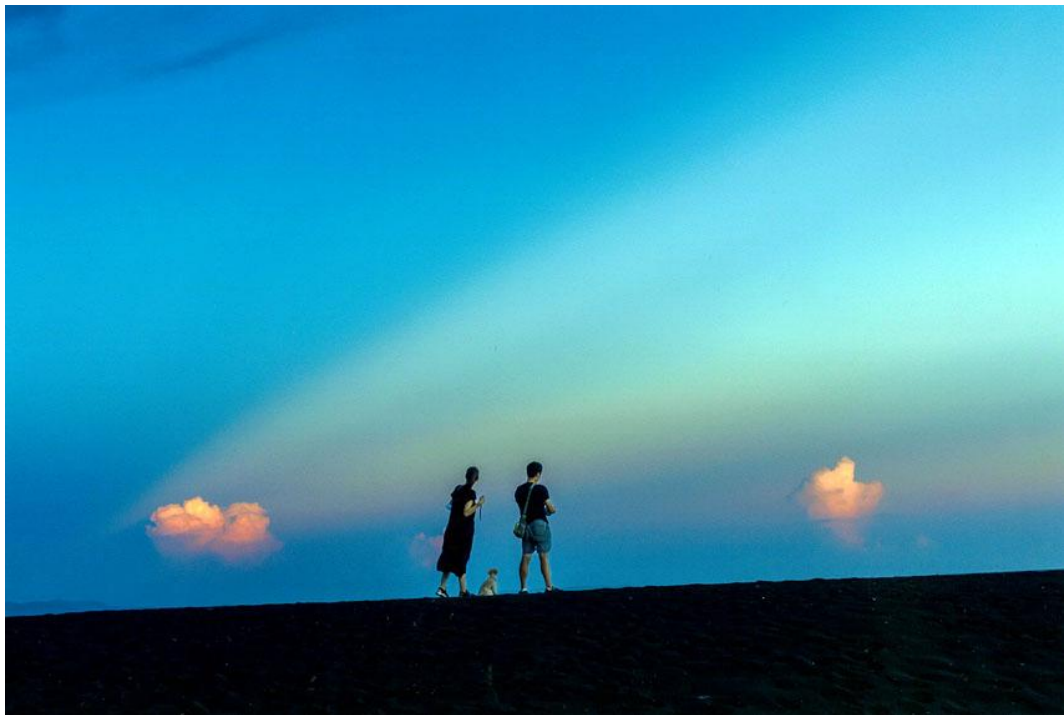
【 銅賞 】



「ギブアップ」山本芳子（大阪府）

モノクロによる力強い表現が目を引きます。フレームの外から伸びる腕と、ひしゃくで水を掛ける瞬間を捉えたことで、画面に立体感が生まれ、見る者をその場に引き込むような臨場感を生み出しています。さらに、奥へと続く柵が遠近感を強調し、動きと迫りに満ちた印象的な一枚に仕上がっています。

【 入選 】



「斜光」三上和義（神奈川県）

広い空と大地を大胆に二分する大胆な構図が印象的です。美しい斜光の中に立つ二人と、その間の小さな犬がアクセントとなり、静かな風景の中に温かな物語性を生み出しています。

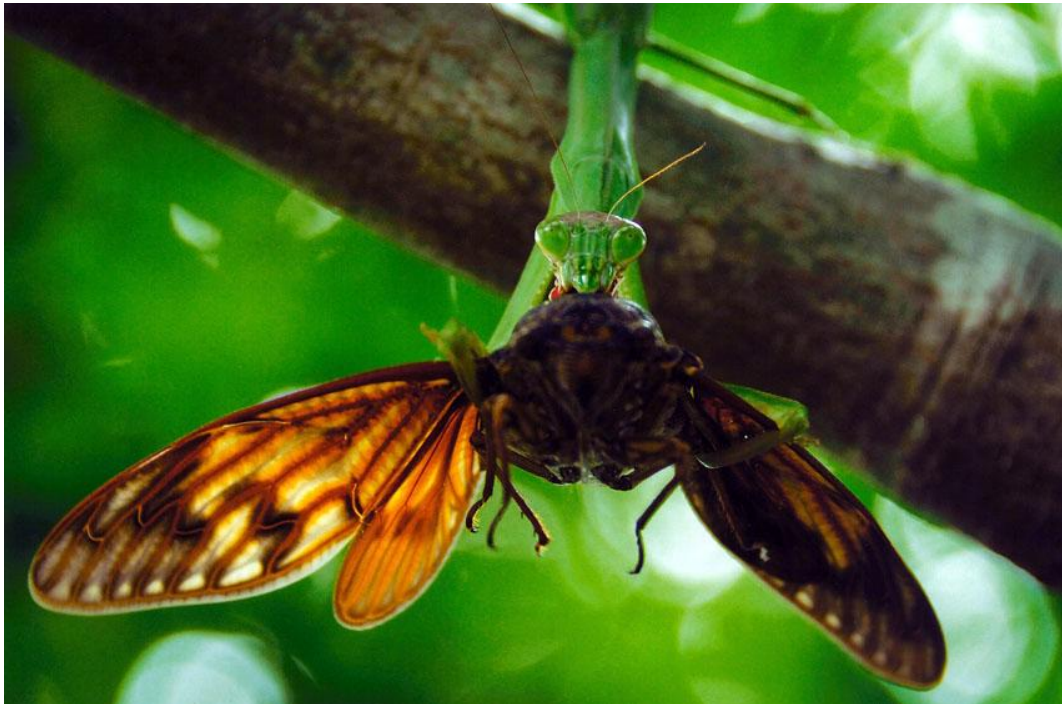
【 入選 】



「しゃぼん玉怖い」佐藤 紘（東京都）

大きなしゃぼん玉を前に、思わず身をすくめる女性の表情と仕草が魅力的です。驚きと楽しさが入り交じる一瞬を捉え、映り込みも効果的な作品です。

【 入選 】



「生死」井出眞琴（茨城県）

カマキリがセミを捕食する緊迫した瞬間を見事に捉えています。透過光に輝くセミの翅と鮮やかな緑の背景が、生きるための厳しい自然界の営みを印象深く伝えています。

【 入選 】



「春爛漫」高木正志（大阪府）

土手を見上げる大胆な構図が印象的です。満開の桜と黄色いタンポポ、青空の鮮やかな色彩対比が美しく、土手の上の人物がアクセントとなり、春の解放感を感じさせます。

【 入選 】



「回収」山本一朗（大阪府）

大量の空き缶と自転車の前カバーに描かれた女性との取り合わせた、ユニークな着眼点が魅力です。何気ない日常の光景に面白さを見いだし、見る人の想像を誘います。

【 入選 】



「半世紀」常峰利次（奈良県）

柔らかな女性の表情と背後に浮かび上がる男性の顔が重なり、歳月の深さを感じさせます。モノクロの落ち着いた階調が人生の積み重ねを静かに語る作品です。

【 入選 】



「目力（めじから）」竹田洋佑（奈良県）

こちらを見つめる牡鹿の鋭い眼差しが強烈な印象を与えます。独特の表情と暗い体毛、鮮やかな青い背景との対比が、動物の個性と存在感を引き出しています。

【 入選 】



「やった一感」福島和昭（大阪府）

色とりどりの衣装が一齐に宙を舞う歓喜の瞬間を見事に捉えています。鮮やかな色彩と地面に伸びる影が躍動感を生み、参加者の一体感が伝わります。

【 入選 】



「おしくらまんじゅう」荒木忠義（広島県）

密集した男たちの身体がぶつかり合い、祭りの熱気と迫力が伝わります。中央の人物の表情と周囲の激しい動きが、臨場感あふれる一瞬を印象づけています。

【 入 選 】



「午後のひととき」馬場正幸（福島県）

蚊帳の中で過ごす子どもたちの自然な仕草が印象的です。柔らかな光に包まれた穏やかな時間から、昔懐かしい蚊帳の中での体験と、子どもたちの好奇心が伝わってきます。